



北海道胆振東部地震を経験して

詳 危機管理室 回(32)6280



①地震発生直後、車のヘッドライトだけが光る市内 ②携帯電話などの充電に長い列ができた市役所庁舎内 ③不安を抱えた人たちが昼夜身を寄せた避難所 ④岡山県総社市とNPO法人ピーク・エイドによる災害支援

平成30年9月6日3時7分胆振地方中東部を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生し、苫小牧市においても2人の方が亡くなり、全道では災害関連死も含め44人もの尊い命が失われました。

北海道で初めて震度7を観測し、道内のほぼ全域となる約295万戸の大規模停電を引き起こした「平成30年北海道胆振東部地震」の発生から1年が経過し、苫小牧市内は震災前と変わらない生活に戻りつつあります。

震災直後は、多くの方が、今後いつ起こるか分からない自然災害に対する備えなどについて意識されたものと思います。いざというときに慌てず、まずは自分自身の身の安全を確保し、周囲の状況を的確に把握できるよう日頃から防災意識を高めましょう。

地震が起こったらどうする

震災による人的被害の多くは、揺れに驚き、慌てて屋外に避難しようとしたときに、自身の転倒・転落による骨折や、家具などの転倒により下敷きになるケースです。まずは安全な場所で身を守り、揺れが収まってから、慌てず落ち着いて行動しましょう。

通電火災に注意しましょう



停電前まで電源が入っていた家電などが地震で正常に作動しなかったり、通電再開時に配線がショートして付近のほこりなどに引火して火事になるケースがあります。停電したらブレーカーを落とし二次災害防止の対策をしましょう。

津波警報・注意報がある場合は「直ちに避難」！
海岸から「より遠く」「より高い場所」に避難しましょう

地震発生から 1〜3分

まずはとにかく「身を守る」!!

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まずは自分の身を守り、周囲の状況に応じて揺れが収まるまで待ちましょう。

屋内では

- 家具・ガラスから離れる
- 頭を守る



屋外では

- 倒壊物・落下物に注意
- 係員の指示に従う
- エレベーターは全てのボタンを押し、停止した階で降りる



自動車運転中は

- ハザードランプをつけ、徐々に減速し、停車する



鉄道・バス乗車中は

- 手すりやつり革につかまる

地震発生から 5分

「揺れ」が収まったら...

揺れが収まったら、慌てず落ち着いて行動しましょう。



火元の点検

コンロやガス器具、ストーブ、タバコなど

出口の確保

家の傾きで扉が開かなくなるのを防止

状況の確認

家族や周囲の安全確認・確保を行う

情報を入手する

テレビなどで正しい情報を入手する